

目次



埼玉県立自然の博物館の使命について	2
1 沿革	3
2 組織及び職員構成	5
3 施設の概要	6
4 展示の概要	7
5 平成27年度事業計画	
(1) 管理運営事業	8
(2) 展示事業	8
(3) 教育普及事業	10
(4) 資料収集整理事業	12
(5) 調査研究事業	12
6 平成26年度事業報告	
(1) 管理運営事業	13
(2) 展示事業	14
(3) 教育普及事業	17
(4) 資料収集整理事業	19
(5) 調査研究事業	21
○ 資料	
(1) 施設の利用状況(利用団体)	28
(2) 教育普及事業内容	31

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとのかかわりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

「川の博物館」と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民のみなさんとともに考え行動しながら、旺盛な博物館活動を展開していきます。

1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します。(データバンク機能)

自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料や、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

2 資料を活用し、多彩な情報を発信します。(情報発信機能)

「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します。(学習支援・人材育成機能)

学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

4 さまざまな人々と連携・交流を進めます。(連携・交流・啓発機能)

自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

1. 沿革

昭和

- 51.12 埼玉県中期計画に基づき自然系博物館の建設計画検討
- 52.5 準備事務を県民文化課から文化財保護課に引継
- 52.11 県立自然系博物館建設基本計画決定
- 52.11.16 埼玉県立自然系博物館建設基本構想策定協議会委員 14 名委嘱
- 53.4.1 自然系博物館設立準備委員 2 名発令
- 53.6.16 自然系博物館建設敷地決定 (長瀨町)
- 54.2.6 埼玉県立自然系博物館展示構想策定委員 4 名委嘱
- 54.4.1 準備委員 4 名発令 (2 名増員)、建設敷地等について秩父鉄道 (株) と協定締結
- 54.9.25 建築基本及び実施設計を前川国男建築設計事務所へ委託
- 55.4.1 埼玉県立自然史博物館(仮称)準備事務所開所、職員所長以下 5 名発令
- 55.4.17 埼玉県立自然史博物館(仮称)建築工事起工式挙行
- 55.9.19 展示企画・基本設計委託(7 社)
- 55.10.1 準備事務所職員 1 0 名発令 (5 名増員)
- 56.1.26 展示実施設計を(株)日展に委託
- 56.3.31 建築工事完成
- 56.4.1 準備事務所職員 1 9 名発令
- 56.4.30 展示製作業務を(株)日展と契約
- 56.10.30 展示工事完成
- 56.11.10 埼玉県立自然史博物館条例、同管理規則施行
埼玉県立自然史博物館開館、館長須藤和人以下職員 18 名発令
- 56.11.11 一般公開
- 56.12.3 博物館法第 10 条による博物館登録
- 59.4.1 館長 三友清史発令
- 60.10.9 入館者累計 50 万人達成
- 60.12.9~21 アケボノゾウ骨格化石発掘調査
- 61.4.1 館長 紺野雄三発令

平成

- 1.4.1 館長 島田道郎発令
- 2.4.21 入館者累計 100 万人達成

- 3.3.12 日本生命財団より展示総合案内寄贈
- 3.4.1 館長 大熊欽一発令
- 3.10.19~11.24 開館 10 周年記念特別展「よみがえる太古の巨大ザメ」開催
- 5.5.12 天皇・皇后行幸啓
- 5.12.12 「日本地質学発祥の地」記念碑建立式典挙行
- 6.4.1 館長 中島利治発令
- 6.10.1 入館者累計 150 万人達成
- 6.11.21 新化石種「チチブサワラ」公表
- 7.2.28 身障者用エレベーター設置
- 7.3.15 映像展示「地形の変遷」改修
- 7.12.25 映像展示「ミクロ・マクロの世界」改修
- 8.3.27 第 1 ~ 第 3 収蔵庫空調機オーバーホール
- 9.3.31 吸収冷温水発生機修繕工事
- 9.7.22 地形模型、変成岩パネル等展示改修
- 9.7.25 秋篠宮殿下同妃殿下お成り
- 9.10.31 冷却塔水処理装置工事
- 10.2.28 特別収蔵庫空調機器交換工事
- 10.4.1 館長 梅沢太久夫発令
- 10.9.30 公共下水道接続工事
- 11.3.19 「パレオパラドキシア」埼玉県天然記念物指定 (埼玉指第 462・463 号)
- 11.5.30 生物展示ホール「シャクナゲ咲く初夏の原生林」・「暗黒の世界鍾乳洞」にタッチライト設置
- 11.7.17~8.31 特別展「アユの生活誌」をさいたま川の博物館と共催
- 12.4.1 館長 増田逸朗発令
- 12.8.15 入館者累計 200 万人達成
- 12.8.23 生物展示ホール「みどりこい夏のアカマツ林」にタッチライト設置
- 12.10.1 館長 大友務発令
- 13.5.8 生物展示ホール「冬枯れの雑木林と池や沼」にタッチライト設置
- 14.3.18 生物展示ホール照明改修
- 14.3.26 身障者用駐車場改修
- 14.6.21 パレオパラドキシア般若標本の産出状態レプリカを展示
- 14.8.9 オリエンテーションホールの照明改修

- 14.10.5～12.8 特別展「奥秩父の自然」開催
- 14.10.8～12.8 特別展「ヤマネー森に棲むもの 西村豊写真展」開催
- 15.4.1 館長 谷井彪発令
- 15.10.4～12.9 特別展「里山の自然」開催
- 16.12.27 駐車場改修工事完了（第二工区）
- 17.3.22 「大野原産チチブクジラ骨格化石」埼玉県天然記念物指定（埼文指第 503 号）
- 17.4.1 館長 柿沼幹夫発令
- 17.10.8～12.4 特別展「石の用と美」開催
- 18.4.1 県立博物館施設の再編により「県立自然の博物館」設置
- 18.4.1 館長 柿沼幹夫発令（川の博物館長と兼務）
- 18.7.22～9.3 特別展「巨大昆虫の世界」開催
- 19.4.1 館長 本間岳史発令（川の博物館長と兼務）
- 19.11.23 入館者累計 250 万人達成
- 20.2.2 展示室リニューアルオープン
- 20.4.1 館長 本間岳史発令（兼免）
- 20.4.1 環境担当（川の博物館常駐）を設置
- 20.7.20 ～8.31 特別展「巨大昆虫の世界 II」開催*
- 21.4.1 館長 鈴木敏昭発令
- 21.7.18～8.31 特別展「埼玉圏の原始・古代人」開催*
- 22.4.1 館長 井上肇発令
- 22.9.18～11.14 特別展「葉の世界—そのかたちと利用を探る—」開催*
- 23.4.1 館長 根岸玲発令
- 23.9.1～24.10.5 施設改修のため休館
(講師派遣等館外で行う事業は実施)
- 23.9.17～11.20 特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと 秩父のおごつつおう」開催*
- 24.4.1 館長 渋谷重雄発令
- 24.10.6 リフレッシュオープン
- 24.7.14～9.2 特別展「今だって氷河時代」開催*
- 25.4.1 館長 井上尚明発令
- 25.7.13～9.1 特別展「和船大図鑑—荒川をつなぐ舟・ひと・モノ—」開催*
- 26.4.1 館長 井田秀夫発令
- 26.6.11～10.26 特別展「恐竜時代 ～海と陸の支配者たち～」開催
- 26.10.4～11.24 特別展「荒川流域の鉱山と産業 ～地下資源の利用と人々の暮らし～」開催*

*印 企画＝自然の博物館、実施＝川の博物館



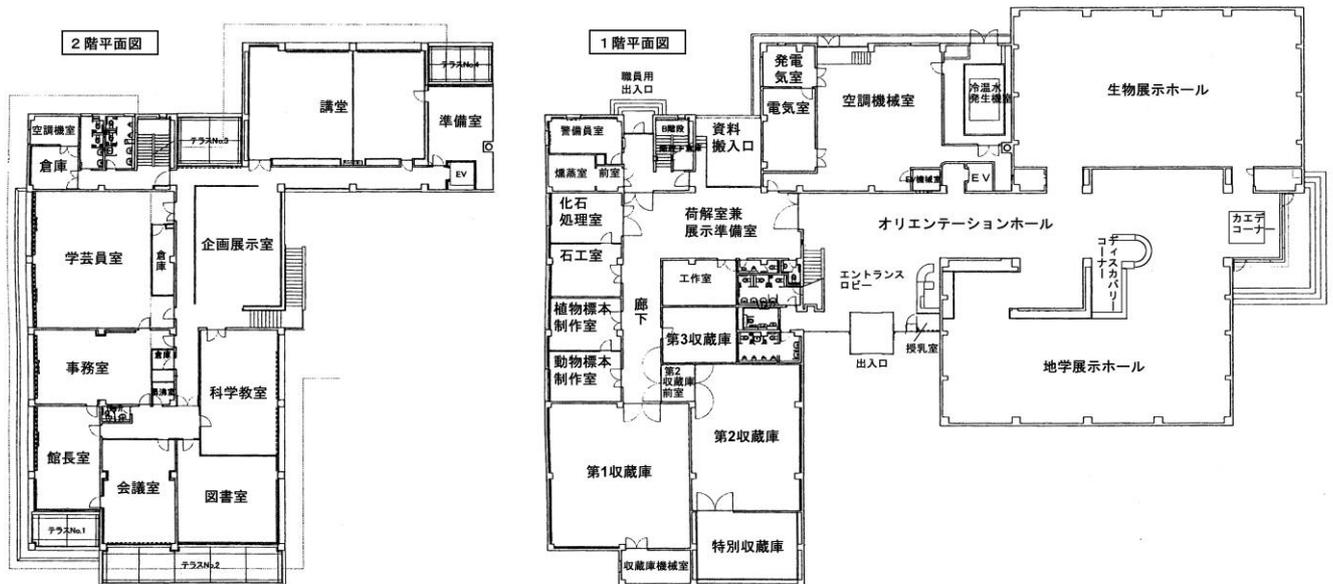
表紙写真について

写真はガリミムスという恐竜の全身骨格レプリカです。ガリミムスは後期白亜紀のアジアに生きていた恐竜です。埼玉県にも恐竜時代の地層があり、山中層群とよばれています。中生代白亜紀の地層が分布しているのですが、この地層は小鹿野町から長野県まで帯状につながっています。1981年、群馬県神流町のこの地層から、サンチュウリュウとよばれる恐竜の化石が発見されました。当時はガリミムスの化石と考えられていましたが、現在はより原始的な恐竜だったのではないかと考えられています。埼玉県側からは残念ながらまだ恐竜の化石は発見されていませんが、埼玉県にも同じ地層が分布することから、もしかするとガリミムスのような恐竜の化石が見つかるかもしれません。

（自然担当学芸員 北川博道）

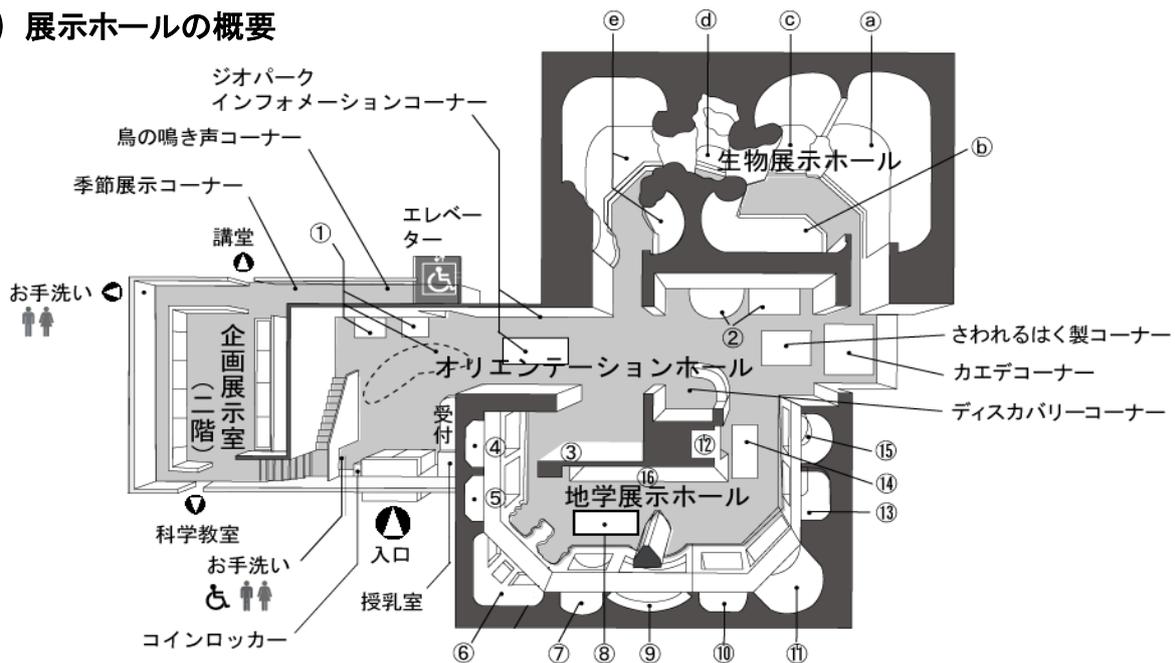
3. 施設の概要

- (1) 所在地 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417番地の1
- (2) 敷地面積 9,948.76㎡
- (3) 建物の構造及び床面積 鉄筋コンクリート、2階建、建築面積2,068.6㎡ 延床面積 3,022.29㎡
- (4) 各部門及び各室の面積
 - ア 展示部門 1,160.0㎡(38.4%)
 エントランスロビー(78㎡)、オリエンテーションホール(254㎡)、地学展示ホール(303㎡)、
 生物展示ホール(342㎡)、さわれるはく製コーナー(5㎡)、企画展示室(150㎡)
 ディスカバリーコーナー(22㎡)、カエデコーナー(6㎡)
 - イ 教育部門 269.5㎡(8.9%)
 講堂(150㎡)、準備室(43㎡)、科学教室(73.5㎡)、倉庫(3㎡)
 - ウ 研究部門 202.5㎡(6.7%)
 学芸員室(132㎡)、図書室(70.5㎡)
 - エ 技術部門 158.4㎡(5.2%)
 化石処理室(27㎡)、石工室(27㎡)、植物標本製作室(27㎡)、動物標本製作室(27㎡)、
 工作室(23.6㎡)、くん蒸室及び同前室(16㎡)、暗室(10.8㎡)
 - オ 保管部門 529.9㎡(17.5%)
 第1収蔵庫(149㎡)、第2収蔵庫及び同前室(125.7㎡)、第3収蔵庫(28.8㎡)、
 特別収蔵庫(58.4㎡)、資料搬入口(36㎡)、荷解室兼展示準備室(90㎡)、搬入通路(42㎡)
 - カ 管理部門 498.1㎡(16.5%)
 館長室(47.3㎡)、事務室(63㎡)、会議室(54㎡)、警備員室兼清掃員室(20.8㎡)、倉庫(23.8㎡)、
 機械室(261.5㎡)、空調機械室(9.7㎡)、収蔵庫機械室(18㎡)
 - キ その他(共通) 203.89㎡(6.7%)
 エレベーター(11㎡)、湯沸室(3㎡)、トイレ(4ヶ所・66.8㎡)、階段・廊下(123.09㎡)



4. 展示の概要

(1) 展示ホールの概要



(2) 展示テーマ (丸数字、丸記号は上の図と対応している)

◇ オリエンテーションホール

- ・ (総合サイン) 過去から未来へ
埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生
- ・ カルカロドン・メガロドン①
- ・ ジオパークインフォメーションコーナー
長瀨の地質
秩父・長瀨の地質学史と博物館のあゆみ
長瀨の見どころ
- ・ パレオパラドキシア②

◇ 体験ゾーン

- ・ ディスカバリーコーナー
新たな発見や感動の体験
- ・ カエデコーナー
カエデを中心とした展示
- ・ さわれるはく製コーナー
親しまれているけものや野鳥たち

◇ 地学展示ホール

- ・ 荒川上流部③
- ・ 秩父帯の地層
秩父帯の地層④
2億5000万年前の海の様子⑤
秩父鉾山⑥
- ・ 恐竜時代の地層⑦
山中地溝帯
1億年前の海と陸のようす
ガリムスブラツス⑧
- ・ ソールマーク
- ・ 埼玉の変成岩⑨

・ 盆地と丘陵⑩

新第三紀中新世の海
チチブクジラの骨格

・ 砂泥互層

・ 新時代の幕あけ⑪

第四紀はじめの化石林—メタセコイア—

・ 地層の断面

・ 第四紀の化石⑫

・ アケボノゾウがいたころのようす⑬

・ アケボノゾウ骨格復元模型⑭

・ 第四紀地形の変遷 (ビデオ展示) ⑮

・ 埼玉の地形と地質⑯

◇ 生物展示ホール

・ 冬枯れの雑木林と池や沼①

・ みどりこい夏のアカマツ林②

・ いろどられるブナ林と溪流③

・ 石灰岩にきざまれた自然の造形、鍾乳洞④

・ シャクナゲ咲く初夏の原生林⑤

◇ 企画展示室(2階)

- 各ホールの展示とは別に、年3～4回テーマを設定し展示しています。

◇ 季節展示コーナー(2階)

- 季節の移り変わりを写真中心に展示しています。

◇ 鳥の鳴き声コーナー(2階)

- 身近な鳥のはく製を展示し、その鳴き声をおしやべりマイマイ (展示物解説用具) により聞くことができます。

5. 平成27年度事業計画

(1) 管理運営事業

埼玉の自然及び自然と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、整理保管、調査研究及び教育普及、展示事業等を円滑に推進するため、自然の博物館全般の管理運営に努めます。

(2) 展示事業

展示を充実し、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施します。

① 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

- (ア) 生物展示ホールを一部改修し、展示内容、展示物の充実を図ります。
- (イ) オリエンテーションホールに、ジオパーク秩父を解説する展示内容を更新します。
- (ウ) 地学・生物両展示ホールの褪色・汚損が見られるパネルや、最新の学術情報の解説が必要な展示を制作更新します。

イ 展示資料および展示器材等の補充・管理

常設展示で使用している資料の補充や、展示台等の器材の補修・交換を行います。

ウ 「体験ゾーン」の維持管理

野生動物を身近に感じてもらうために、傷んだはく製を随時入れ替えるなど、「さわれるはく製コーナー」の維持管理に努めます。
また、ディスカバリーコーナーやカエデコーナーの更新を定期的実施します。

② 特別展の実施

ア タイトル：「うんち・糞・フン～ダンゴムシからゾウまで～」

期 間：平成27年7月11日（土）～平成27年8月31日（月）

会 場：企画展示室、オリエンテーションホール

概 要：糞は動物の種類によって様々な形や大きさをしていて、動物たちのくらしの情報が満載されています。そんな糞たちの見比べ方を紹介します。

イ タイトル：「魚と人の知恵くらべ～魚の生態と伝統漁法～」

（企画：自然の博物館、運営：川の博物館）

期 間：平成27年7月18日（土）～平成27年8月31日（月）

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室

概 要：魚と人の知恵くらべという観点から荒川水系で行われていた伝統漁法と荒川に棲む魚の生態について紹介します。

③ 企画展示の実施

ア タイトル：「お蔵出し新収集品展」

期 間：平成 27 年 4 月 1 日（水）～平成 27 年 6 月 28 日（日）

会 場：企画展示室

概 要：荒川河床で発見されたクジラの化石、チョウや甲虫、オサムシのコレクション、アカショウビンやオオタカの骨格標本など、近年（平成 18 年以降）新たに収蔵された資料を紹介します。

イ タイトル：「パレオパラドキシア～大野原標本発掘から 40 年～」

期 間：平成 27 年 9 月 19 日（土）～平成 27 年 12 月 27 日（日）

会 場：企画展示室

概 要：約 1500 万年前の埼玉の海には、いまだに謎の多い化石生物・パレオパラドキシアが生きていました。埼玉県はこの化石生物の世界一の産地。パレオパラドキシアの進化と埼玉の海に生きていた化石生物たちを紹介します。

ウ タイトル：「花粉が教えてくれること」

期 間：平成 28 年 1 月 30（土）～平成 28 年 3 月 31 日（木）

会 場：企画展示室

概 要：花粉というと花粉症のイメージが強いですが、花のある植物の進化や昔の環境など、様々なことを教えてくれます。花粉からわかることや、かたちの多様性を紹介します。

④ 季節展示の実施

ア タイトル：「春を待つ生きもの」

期 間：平成 27 年 4 月 1 日（水）～平成 27 年 4 月 26 日（日）

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：寒い冬を生き抜く生きものたちの、生きるための工夫を紹介します。

イ タイトル：「まつぼっくりができるまで」

期 間：平成 27 年 4 月 28（火）～平成 27 年 7 月 5 日（日）

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概 要：まつぼっくりはどのようにしてできるのでしょうか。いろいろなまつぼっくりの成長の様子を紹介します。

ウ タイトル：「うんちの豆知識」

期 間：平成 27 年 7 月 11 日（土）～平成 27 年 9 月 6 日（日）

会 場：企画展示室季節展示コーナー

概要：動物の糞について、実になる（？）豆知識を紹介します。

エ タイトル：「活火山と埼玉」

期間：平成27年9月15日（火）～平成27年12月27日（日）

会場：企画展示室季節展示コーナー

概要：埼玉県に活火山はありませんが、浅間火山、八ヶ岳火山、日光白根火山など、埼玉県をとりまく活火山はたくさんあります。「埼玉県に関係あるの?」「もし噴火したら埼玉県はどうなるの?」などの疑問に答えます。

オ タイトル：「春の昆虫」

期間：平成28年1月30日（土）～平成28年3月31日（木）

会場：企画展示室季節展示コーナー

概要：早春から晩春まで、季節に連れて移り変わる昆虫たちを紹介します。

⑤ 共催展示の実施

ア タイトル：埼玉の鳥と生きもの

期間：平成27年7月18日（土）～平成27年8月31日（月）

会場：羽生市立図書館・郷土資料館

概要：鳥を中心とした埼玉県内にすむ生きもののはく製・標本を多数展示、紹介します。

(3) 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供します。

平成27年度は、次の事業を実施します。

- | | |
|-----------------|----------|
| ① 自然史講座 | 10回（10日） |
| ② 観察会 | 11回（11日） |
| ③ ミュージアムトーク | 36回（36日） |
| ④ その他事業 | 6回（23日） |
| ⑤ 学校教育、社会教育への支援 | 20回（20日） |
- 理科や総合的な学習の時間、環境教育等において出前授業や野外観察の講師としての支援
- | | |
|-----------------|--------|
| ⑥ 指導者対象講座の開催 | |
| ア 教員のための博物館の日 | 1回（3日） |
| イ 授業に役立つ自然史体験講座 | 1回（1日） |
- ※ 上のア、イは期日を重複させて実施します。（アの中にイを含ませます。）

⑦ 各種研修会・教育研究団体の受け入れ

県立総合教育センター主催の教員研修会をはじめ、各種研修会や研究団体の研修や行事等を積極的に受け入れます。

- ア 中学校初任者研修（教科別研修・理科） 1回（ 1日）
- イ 中学校5年経験者研修（理科） 1回（ 1日）
- ウ 小・中学校初任者研修（みどりと川と埼玉の歴史を学ぶ体験研修） 6回（ 6日）
- エ 高等学校・特別支援学校等5年経験者研修社会貢献活動体験研修 1回（ 2日）
- オ 20年経験者研修（社会体験・ボランティア体験研修） 1回（ 3日）

⑧ 博物館学芸員実習・職場体験等の受け入れ

ア 博物館学芸員実習

実習期間 平成27年8月4日（火）～8月11日（火）（月曜休の7日間）

- イ 中学生職場体験実習（3日間）
- ウ 高校生インターンシップ（3日間）
- エ 大学生県庁インターンシップ（7日間）

⑨ 自然の博物館友の会の活動への支援

- ア 定期総会、野外観察会（5回）、交流会（1回）の開催
- イ 会報「みんなの自然史」第81～82号

⑩ 各種印刷物の刊行・配布

- ア 埼玉県立自然の博物館報 第10号
- イ 埼玉県立自然の博物館研究報告 第10号
- ウ 催し物案内
- エ 自然の博物館ニュースレター「澁」第25号～第26号
- オ 特別展「うんち・糞・フン～ダンゴムシからゾウまで～」、「魚と人の知恵くらべ」の図録及びリーフレット
- カ 企画展「パレオパラドキシア～大野原標本発掘から40年～」、「花粉が教えてくれること」のリーフレット
- キ 観察会等のテキストや研究発表会の資料
- ク 自然の博物館利用講座テキスト及び指導資料
- ケ 自然の博物館利用の手引き
- コ 展示解説リーフレット

⑪ ボランティアの受入

生涯学習や自己実現の場を提供し、重要なパートナーとして、博物館活動の質を高めます。

- ア 展示解説ボランティア
ボランティアによる展示解説を実施します。
- イ 普及事業ボランティア
観察会・講座等の事業を補助します。
- ウ 資料整理ボランティア

専門知識のあるボランティアが、標本化作業を補助します。

エ 調査・資料収集補助ボランティア

学芸職員とともに、博物館の調査研究・資料収集を補助します。

(4) 資料収集整理事業

自然に関する資料を収集・整理・保管し、県民に供するため、次の事業を実施します。

- ① 化石資料の整理と登録
- ② 岩石・鉱物系資料の整理と登録
- ③ 維管束植物の標本作製と登録
- ④ 非維管束植物の標本作製と登録
- ⑤ 昆虫標本の同定と整理、登録
- ⑥ 昆虫以外の無脊椎動物の整理と登録
- ⑦ 大型動物の触察剥製の作製と登録
- ⑧ 小型脊椎動物の骨格標本の作製と登録
- ⑨ 図書を除く二次資料の収集と整理
- ⑩ 定期刊行物を中心とする図書資料の整理
- ⑪ 「ジオパーク秩父」に関連する文献資料の収集と整理
- ⑫ 川の博物館の収蔵庫内に保管されている自然史系資料の整理
- ⑬ インターネットを通じての収蔵資料の積極的公開

(5) 調査研究事業

- ① 埼玉の自然及び自然と人々との関わりに関する研究

標記の総合研究テーマに基づき、分野ごとに研究テーマを設定し、調査研究を行います。研究の成果は、研究報告書等で公表し、展示・教育普及事業等で活用するように努めます。

分野別研究テーマ

ア 自然分野：埼玉の自然に関する研究

イ 環境分野：埼玉の自然と人々の関わりに関する研究

- ② 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

カモシカ保護地域における生息環境・生息状況・食害状況に関する通常調査を行い、カモシカ保護管理の基礎資料として活用します。

- ③ 外部研究者の受入と活用

外部の研究者に施設や収蔵資料を活用してもらい、また、共同研究を行って博物館の基礎的力量を高めます。

6. 平成26年度事業報告

(1) 管理運営事業

埼玉の自然及び自然と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、整理保管、調査研究及び教育普及、展示事業等を円滑に推進するため、自然の博物館全般の管理運営に努めました。

① 歳出予算

(単位：千円)

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
管理運営費	15,169	14,145	20,376	19,000
資料収集整理事業費	1,387	819	1,052	807
展示・教育普及事業費	1,801	1,674	2,117	8,252
合計	18,357	16,638	23,545	28,059

② 平成26年度入館者状況

月	有料観覧者			無料観覧者			合計	開館日数	
	一般	学生・生徒	計	一般	学校等利用				計
					校数	人数			
4	1,948	74	2,022	1,301	4	236	1,537	3,559	26
5	2,914	234	3,148	1,958	18	2,492	4,450	7,598	28
6	2,499	177	2,676	1,789	13	859	2,648	5,324	25
7	3,256	166	3,422	2,681	12	757	3,438	6,860	31
8	8,183	652	8,835	7,429	6	291	7,720	16,555	31
9	1,993	119	2,112	1,391	4	212	1,603	3,715	20
10	1,982	43	2,025	1,544	31	1,772	3,316	5,341	28
11	4,297	274	4,571	3,574	8	874	4,448	9,019	28
12	816	20	836	509	4	165	674	1,510	21
1	1,054	85	1,139	679	1	9	688	1,827	25
2	1,159	68	1,227	792	2	30	822	2,049	24
3	1,535	113	1,648	1,191	3	83	1,274	2,922	26
合計	31,636	2,025	33,661	24,838	106	7,780	32,618	66,279	313

③ 施設の利用状況

各種団体への施設利用件数は、次のようになっています。利用した団体名、利用日は28ページから30ページにかけての資料をご覧ください。

- ア 会議室 23件 (学校11件、一般12件)
- イ 講堂 56件 (学校31件、一般25件)
- ウ 科学教室 14件 (学校6件、一般8件)

(2) 展示事業

展示を充実し、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施しました。

① 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

- (ア) 地学展示ホールに恐竜ガリミムブラツスの全身骨格模型を追加しました。
- (イ) 地学展示ホールに「第四紀の化石」の展示スペースを新設し、大型クマの頭や体の一部の骨、ナウマンゾウの歯の化石などを展示しました。
- (ウ) 地学展示ホールの秩父鉱山の展示スペースを改良し、展示物を更新しました。
- (エ) 地学・生物両展示ホールの褪色・汚損が見られるパネルや、最新の学術情報の解説が必要な展示を制作更新しました。

イ 展示資料および展示器材等の補充・管理

常設展示で使用している資料の補充や、展示台等の器材の補修・交換を行いました。

ウ 「体験ゾーン」の維持管理

野生動物を身近に感じてもらうために、傷んだはく製を随時入れ替えるなど、「さわられるはく製コーナー」の維持管理に努めました。また、ディスカバリーコーナーやカエデコーナーの更新をしました。「体験ゾーン」の年間更新回数は6回でした。

② 特別展の実施 ※担当の()内は副担当 以下同じ

ア タイトル：恐竜時代 ～海と陸の支配者たち～

期 間：平成26年6月11日(水)～平成26年10月26日(日)

会 場：企画展示室、オリエンテーションホール、地学展示室

見学者：38,740名

担 当：北川(高橋)

概 要：全長10メートルを超える草食恐竜「マラウイーサウルス」、アフリカの狩人の名を持つ肉食恐竜「アフロベナトール」など、太古の大地を駆け抜けた恐竜や海に大繁栄したアンモナイトなど多数の化石を展示しました。

イ タイトル：荒川流域の鉱山と産業 ～地下資源の利用と人々の暮らし～

(企画：自然の博物館、運営：川の博物館)

期 間：平成26年10月4日(土)～平成26年11月24日(月祝)

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室

見学者：9,980名

担 当：小林

概 要：秩父地域を中心とする荒川流域に多数存在する、鉱山の発展と衰退という視点から、荒川上流域の自然、産業、経済、文化について紹介しました。

③ 企画展示の実施

- ア タイトル：どうなっているの？ 埼玉県の動植物―レッドデータブックのいきもの―
期 間：平成26年4月1日（火）～平成26年5月25日（日）（年度またぎ）
会 場：企画展示室
見学者：10,018名
担 当：曾根崎（奥村、木山）
概 要：最新の埼玉県版レッドデータブック動物編（2008）・植物編（2011）で取り上げられた希少種について、収蔵する動物剥製や昆虫標本、植物標本、植物レプリカなどを展示・解説することにより、本県の希少種や絶滅危惧種の現状について県民に理解を深めていただきました。
- イ タイトル：カラフル昆虫記
期 間：平成26年11月8日（土）～平成27年2月22日（日）
会 場：企画展示室
担 当：曾根崎(奥村)
見学者：12,497名
概 要：金属のような光を放つフン虫、季節によって色を変えるアカボシゴマダラをはじめ、派手な虫、渋い虫、不思議な模様の虫など変わったデザインの虫を特集しました。
- ウ タイトル：お蔵出し新収集品展
期 間：平成27年3月7日（土）～平成27年3月31日（火）
会 場：企画展示室
担 当：井上(木山)
見学者：2,016名
概 要：荒川河床で発見されたクジラの化石、チョウや甲虫、オサムシのコレクション、アカショウビンやオオタカの骨格標本など、近年（平成18以降）新たに収蔵された資料を紹介しました。

④ 季節展示の実施

- ア タイトル：地質名所の四季
期 間：平成26年4月1日(火)～平成26年5月11日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー
担 当：北川(井上)
見学者：7,365名
概 要：岩畳や「ようばけ」などの地質名所の四季の移り変わりを紹介しました。
- イ タイトル：メタセコイアの四季
期 間：平成26年5月13日(火)～平成26年7月13日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー
担 当：楡井(高橋)
見学者：10,945名
概 要：植栽60年を記念して、生きた化石メタセコイアの来歴と生活史を紹介しま

した。

ウ タイトル：水辺の生きもの

期 間：平成 26 年 7 月 15 日(火)～平成 26 年 10 月 12 日 (日)

会 場：企画展示室季節展示コーナー

担 当：曾根崎(山本)

見学者：27,382 名

概 要：川や池沼の周辺で暮らす動植物の生態を紹介しました。

エ タイトル：長瀨名勝天然記念物 90 年

期 間：平成 26 年 10 月 14 日(火)～平成 27 年 1 月 18 日 (日)

会 場：企画展示室季節展示コーナー

担 当：北川(木山)

見学者：14,976 名

概 要：長瀨が名勝天然記念物に指定されて 90 年、懐かしい写真をもとに長瀨の 90 年を振り返りました。

オ タイトル：春を待つ生きもの

期 間：平成 27 年 1 月 20 日(火)～平成 27 年 3 月 31 日 (火)

会 場：企画展示室季節展示コーナー

担 当：奥村(木山)

見学者：5,588 名

概 要：寒い冬を生き抜く生きものたちの、生きるための工夫を紹介しました。

⑤ 共催展示の実施

ア タイトル：第 8 回（通算 33 回）自然科学展

期 間：平成 26 年 7 月 20 日（日）～平成 26 年 8 月 31 日（日）

会 場：熊谷市立熊谷図書館

担 当：奥村

見学者：3,581 名

概 要：水辺や平野及び山の鳥の剥製・標本を多数展示、紹介しました。

⑥ おしゃべりマイマイ(展示物解説用具)利用実績

月	貸出数	月	貸出数
H26 年 4 月	642	H26 年 10 月	714
H26 年 5 月	823	H26 年 11 月	920
H26 年 6 月	697	H26 年 12 月	206
H26 年 7 月	915	H27 年 1 月	367
H26 年 8 月	2,496	H27 年 2 月	358
H26 年 9 月	597	H27 年 3 月	474
		合計	9,206

(3) 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供しました。平成26年度は、次の事業を実施しました。なお、①～⑩の事業の詳細は31ページから42ページにかけての資料をご覧ください。

- | | | | |
|--|------------|-----|-------|
| ① 自然史講座 | 10回(10日) | 参加者 | 166名 |
| ② 観察会 | 9回(9日) | 参加者 | 141名 |
| ③ ミュージアムトーク | 40回(40日) | 参加者 | 629名 |
| ④ 各種団体との共催・協力イベント | 25回(25日) | 参加者 | 2612名 |
| ⑤ その他の事業 | 27回(27日) | 参加者 | 1909名 |
| ⑥ 学校教育、社会教育への支援 | 合計88回(88日) | 参加者 | 4522名 |
| 理科や総合的な学習の時間、環境教育等において出前授業や野外授業の講師として支援を実施しました。 | | | |
| ア 学校教育への支援 | 54回(54日) | 参加者 | 3307名 |
| イ 社会教育への支援 | 34回(34日) | 参加者 | 1215名 |
| その他、「利用促進案内」として124校に訪問しました。また、秩父郡市理科教育研究会の協力により、秩父郡市内41校に案内を行いました。 | | | |
| ⑦ 指導者対象講座の開催 | | | |
| 授業に役立つ自然史体験講座 | 1回(1日) | 参加者 | 14名 |
| ⑧ 各種研修会・教育研究団体の受け入れ | 合計11回(12日) | 参加者 | 361名 |
| 県立総合教育センター主催の教員研修会をはじめ、各種研修会や研究団体の研修や行事等を積極的に受け入れました。 | | | |
| ア 中学校初任者教科別研修(理科) | 1回(1日) | 参加者 | 72名 |
| イ 小・中学校初任者研修(みどりと川と埼玉の歴史を学ぶ体験研修) | 6回(6日) | 参加者 | 187名 |
| ウ 高等学校・特別支援学校等5年経験者社会貢献体験研修 | 1回(2日) | 参加者 | 8名 |
| エ 中学校5年経験者研修教科コース(理科) | 1回(1日) | 参加者 | 46名 |
| オ 20年経験者社会体験・ボランティア研修 | 希望者なし | | |
| カ その他教員研修 | 2回(2日) | 参加者 | 48名 |
| ⑨ 博物館学芸員実習・職場体験等の受け入れ | 合計3回(13日) | 実習生 | 10名 |
| ア 博物館学芸員実習 | 1回(7日) | 実習生 | 6名 |
| イ 中学生職場体験学習 | 1回(3日) | 実習生 | 3名 |
| ウ 高校生職業体験学習 | 希望者なし | | |
| エ 県庁インターンシップ | 希望者なし | | |
| オ 障害者県庁職場実習(職場体験コース) | 1回(3日) | 実習生 | 1名 |
| ⑩ 自然の博物館友の会の活動への支援 | | | |
| ア 定期総会、野外観察会(6回)、交流会(1回)の開催 | | | |
| イ 会報「みんなの自然史」第77～78号 | | | |

⑪ 各種印刷物の刊行・配布

- ア 埼玉県立自然の博物館報 第9号
- イ 埼玉県立自然の博物館研究報告 第9号
- ウ 催し物案内（ミュージアムカレンダー）
- エ 自然の博物館ニュースレター「漣」 第23号～第24号
- オ 特別展「恐竜時代～海と陸の支配者たち～」、特別展「荒川流域の鉱山と産業～地下資源の利用と人々の暮らし～」の図録・リーフレット、
- カ 企画展「カラフル昆虫記」、企画展「お蔵出し新収藏品展」のリーフレット
- キ 観察会等のテキストや研究発表会の資料
- ク 自然の博物館利用講座テキスト及び指導資料
- ケ 自然の博物館利用の手引き
- コ 展示解説リーフレット

⑫ ボランティアスタッフの受入

生涯学習や自己実現の場を提供し、重要なパートナーとして、博物館活動の質を高めることを目的に積極的に受け入れてきました。

ボランティアスタッフ 20名（ア～エの重複者あり）

延べ活動日数 291名

ア 展示解説ボランティア 12名 延べ活動日数 89日

一般観覧者に対し、ボランティア解説員による展示解説の補助を実施してもらいました。

イ 普及事業ボランティア 13名 延べ活動日数 69日

観察会・講座等の事業の補助をしてもらいました。

ウ 資料整理ボランティア 12名 延べ活動日数 118日

専門知識のあるボランティアにより、標本化作業の補助をもらいました。

エ 調査・資料収集補助ボランティア 13名 延べ活動日数 15日

学芸職員とともに、博物館の調査研究・資料収集を補助してもらいました。

⑬ ホームページでの情報公開とアクセス数

	アクセス数	更新回数		アクセス数	更新回数
平成26年4月	54,264	12	平成26年10月	47,833	17
平成26年5月	66,902	14	平成26年11月	53,909	22
平成26年6月	75,874	17	平成26年12月	53,660	15
平成26年7月	51,869	16	平成27年1月	23,835	13
平成26年8月	52,868	14	平成27年2月	22,961	9
平成26年9月	48,443	12	平成27年3月	16,516	13
			合計	568,934	174